

# 平成28年度 介護の日 作文・写真コンクール作品集



茨城県知事賞

鈴木 明美 (れもん) 「98歳の舞」



茨城県老人福祉施設協議会長賞

地引 弘美 (峰林荘) 「憧れの花嫁衣裳」



イケメンで賞

西宮 利加 (ユーアイの家) 「さわやか お茶会」



イケジョで賞

中泉 恵比 (葛城デイサービスセンター)

「私100歳♡

長生きの秘訣は『微笑み』をわすれないことです。」



審査委員長賞  
芝崎 かおり (成華園)  
「ホクホク笑顔 プライスレス♪」



茨城県介護福祉士会会長賞  
田村 洋子 (新つくばホーム)  
「二人でこれからもずつ～とね。」



審査委員長賞  
秦 沙保里 (峰林荘)  
「ひと口で入るかな～」



情報委員長賞 遠藤 沙也香 (成華園) 「俺のルーティーン!!」



情報委員長賞 松本 選之 (やすらぎの園) 「似た者同士」

はじめに

介護についての理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及び介護に取り組む家族を支援するとともに、地域社会における支え合いや交流を促進することを目的として制定された「介護の日」(十一月十一日)の趣旨をふまえ、県では、介護を必要とする人や介護の仕事をしている人だけでなく、県民誰もが介護について考えるきっかけとするため、「介護の日」作文コンクールを実施しており、今年度で八回目となります。

今年度は皆様から七百七十四作品もの多くの御応募をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

審査の結果、茨城県知事賞、茨城県議会会長賞、茨城県老人福祉施設協議会長賞、茨城県社会福祉協議会長賞、茨城県理学療法士会会長賞、茨城県介護福祉士会長の各二作品の合計十二作品を選定いたしましたので、ここに受賞作品を御紹介します。

また、第八回目を迎えました写真コンクールは、特別養護老人ホーム等の介護施設・事業所で働いている介護職員などから、福祉・介護現場の感動、感激、喜びを伝える心温まる作品を募集して、応募された百九十二作品の中から、茨城県知事賞、茨城県老人福祉施設協議会長賞、茨城県介護福祉士会会長賞等に選定いたしました受賞作品を掲載しています。

## 目 次

本間 和璃「お年寄りとの会話の大切さ」	1
石塚 裕美「思い出のアルバム」	2
田中 李歩「介護福祉士になるために」	3
浦山 美紗「精一杯支援する。」	4
白澤 春乃「介護の大切なこと」	5
菅野 絹恵「ご利用者のお話から知ったこと」	6
山田 彩水「世界でいちばんの笑顔」	7
吉田 幸子「出合いの時に」	8
住谷ゆりな「介護体験を通して学んだ事」	9
塚本百合子「父と母の二十六年」	10
白田 将也「僕の祖母」	11
太田 彩乃「介護と感謝」	12
茨城県老人福祉施設協議会の取り組み	13
茨城県社会福祉協議会の取り組み	14
茨城県理学療法士の会の取り組み	15
茨城県介護福祉士会の取り組み	16



寺門 美里 (ドルフィン) 「収穫の喜びを共に」



染谷 亜沙美 (長寿の里) 「節分 みんなで鬼退治」



山本 恵 (サンピア) 「男の勝負服」



稲田 真純 (ハートピア水戸) 「ハロウィンパーティー」



美山 由佳 (ハートピア水戸) 「恵方巻の完成」



植木 章太郎 (笠間陽だまり館) 「書き初め、笑い初め」



梅根 大輔 (いくり苑那珂)  
「願う」



## 茨城県知事賞

東海村立東海南中学校 二年生

# お年寄りとの「会話」の大切さ

本間 和璃  
ほんま あいり

東海村



私には、九十歳の曾祖母がいます。曾祖母は東京で一人暮らしをしているので、なかなか会いに行くことはできませんが、毎日家族で交代して、電話をかけてあげています。小学生の時の私は、会いに行ってもずっとテレビを見ていたりして、あまり話すことがありませんでした。しかし今では、学校での出来事を話したりしています。

私がこのように曾祖母との会話を大切にすることができるようになったのは、ある二つの体験があったからです。

一つは、去年行った介護体験です。私が行った施設は、部屋が家のような造りになっていました。その理由を聞いたら、お年寄りは家で家族と話すことがとても楽しく、安心できるからだということがわかりました。また、施設の方は、会話をするととき、とても明るい笑顔で接していました。これも、お年寄りを安心させるためだそうです。この体験を通して、介護には、お年寄りを安全に生活させることに加えて、安心できる環境をつくることも必要だということがよくわかりました。

そしてもう一つは、曾祖母との電話です。電話にできる曾祖母は、いつも嬉しそうな声をしています。最後には必ず、

「寂しいからまた来てね。待ってるよ。」  
と言われます。介護体験で学んだように、お年寄りはいっしょに話してあげるだけでも、とても嬉しいんだということを改めて感じる事ができました。

現在の日本では、高齢化が問題となっていていきます。しかし、日本の伝統をつくりあげてきてくれたのは、お年寄りの方々です。だから、私たちは、お年寄りをもっと安心できるような介護をして、しっかりと感謝の気持ちを伝えるべきだと考えます。

私は、この二つの体験を通して、介護に対する考えを深めることができました。特に印象深かった、会話の大切さは、これからの介護にもいかしていきたいと思います。



新堀 ひとみ (縦の木荘)  
「いい海だなー」



## 茨城県知事賞

特別養護老人ホームサンシャインつくば デイサービス生活相談員

# 思い出のアルバム

石塚 いしづか 裕美 ひろみ  
かすみがうら市



私が、デイサービスの相談員として働くようになり二年が経とうとしています。相談員となり、私は何ができるのだろうと思っていた時に、ある連絡帳に出会いました。介護度4・週5回利用されている方の連絡帳には毎日必ずちよつとしたことが書いてあります。「昨日は休みだったので、家でゴロゴロしてました。」「みかんをおいしいと言って食べてます。本当に元気です。」毎日毎日必ず書いてくれることに、私は嬉しく思い読むのを楽しみにしていました。そんな時「いつもお世話になっていきます。祖母もデイサービスが大好きと言っています。お世話になることができて本当に感謝しています。孫より」その後娘さん、お孫さんのお嫁さん、ひ孫さんも書いてくれるときがありました。私にとって連絡帳を記入することは業務の一部でしかなかったのですが、こんなにもご家族が見ていることを知り、自分自身、連絡帳を書くことを改めて考えるきっかけとなりました。それからは連絡帳にデイサービスでの一日の中で、どんな話をしていたか、どんな時に笑顔

になったか、どんな食事をおいしいと言っていたか、その人のその人らしいことを書いていききました。行事の時には写真を貼ることで楽しさを伝えました。連絡帳というちよつぽけなことです。私にできる事でした。そんな連絡帳を続けるうちに、返事を書いてくれる方が増え「連絡帳いつも楽しみに見てるよ。」と言ってくださる方もありました。連絡帳のページーページが増えていくことが、デイサービスで過ごした思い出となり、利用者、家族、私自身にとって思い出のアルバムになれたらと思っ続けています。

介護の仕事をしていると、お別れをする時が必ずあります。そんな時はいつも、何ができたのか、何をすれば良かったのか、と考えます。今の私は、連絡帳がきっかけとなり、その人の満足を見つけていくことが、私にとってのその人にできることだと思っようになりました。



古澤 克代 (希望の森)  
「あれ〜っ!!」



## 茨城県議会議員賞

# 介護福祉士になるために

茨城県立古河第二高等学校 二年生

田中 たなか 李歩 りほ

栃木県 小山市



私の母は、デイサービスで働いています。私がまだ小さかった頃母に連れられ、母が働くデイサービスを訪れたことがありました。中に入ってまず私の目に飛び込んで来たものは利用者の方が使用するリハビリ用具でした。そこで私はデイサービスがただ食事や入浴、レクリエーション活動をして楽しんでもらうだけの所ではなく、身体機能の維持回復も目指していただける所でもあるのだと知りました。デイサービスで働く職員の方は皆明るく、優しい方ばかりで私が利用者の方とコミュニケーションをとっていると「この職員は皆元気で優しくてよくしてくれるから楽しいんだよ。」とおっしゃっていました。私はその利用者の方の言葉が今も心に残っていて利用者の方に楽しんでいただける環境をつくるのは当たり前のことかもしれないけれどとても大切なことだと思いました。少子高齢化が進み、介護を必要とする高齢者の方が多くなってきているため、将来は介護に関わる仕事に就きたいと思っています。高校で介護実習に行かせていただき実際に利用者の方と

関わることで確かな介護技術とその技術をなぜするのかという知識の両方が大切だということや普段学校では学ぶことができない、実習だからこそ学ぶことができることも多くありました。利用者の方は一人ひとり身体状況も違うため、その利用者の方に負担がかからないようどう介助したらよいか職員の方に教えていただきながら自分でも考えて介助することを学びました。介護実習を通して、自分の成長につなげられることや利用者の方に笑顔で「ありがとう。」と言われた時はとても嬉しい気持ちになれることが分かりました。明るく、元氣も利用者の方が心地よく楽しいと思える施設の環境作りができるような介護者になりたいと思います。これからも素敵な介護福祉士になれるように国家試験に向けて頑張っていきたいと思っています。



牛島 邦子 (ぬくもり荘)  
「まぶしい笑顔」



## 茨城県議会議員賞

# 精一杯支援する。

特別養護老人ホーム 成華園 介護職員

浦山 うらやま

美紗 みさ

日立市



私は子どもの頃からお年寄りと関わる事が好きだった。今介護の仕事をしていて心に決めている事がある。それは「今を精一杯支援する事」だ。大学を卒業し、高齢者の通うデイサービスに勤めた。初めての介護の仕事、大変ではあったが、高齢者との関わりがとても楽しかった。ある時、八十代前半の男性利用者K様がリハビリを終えカラオケに戻ってきた。歌いたいと希望されていたが、カラオケは終了に近づいており、K様が歌うと少し過ぎてしまう時間だった。明日も来所する利用者様だった為、断ってしまった。K様も「明日も来るからいいよ。」と笑顔で答えてくれた。翌日、K様はデイサービスを休んだ。その日の夕方、脳梗塞の為亡くなったと連絡が入った。入社して初めての利用者の訃報、涙が止まらなかった。前日まで冗談を言い、歩いて送迎車に乗り込む利用者は、次の日亡くならないと思っていた。あの時、たった一曲時間をずらさなかった事を後悔した。どんな利用者様も高齢者であり、抱えている病気もある。明日生きている保証なんてないと、

その時感じた。

高齢者領域で仕事を始めて五年になる。関わってきた利用者様で亡くなった方はたくさんいる。今そばにいる利用者様と、いつまで一緒にいられるかなんて分からない。だからこそ、後悔しないよう「今を精一杯支援していきたい」と思う。

今私は入所施設で勤めさせていたでいて、デイサービスより重度の利用者様が多く、亡くなるケースも多い。どのような状況でも精一杯支援できる方法を、学ばせていただいている。介護をしていて、忙しいからまた後でやればいい、また今度やろうと、思ってしまう事がある。その時、K様との出来事を思い出し、心に決めた事は何かを考える。子どもの頃から好きだったお年寄り、今を精一杯支援して、少しでも笑顔多く長生きしていただきたいと願っている。



奥迫 郁子（やすらぎの里）  
「桜の木の下で…初笑い」



## 茨城県老人福祉施設協議会長賞

# 介護の大切なこと

私には今まで沢山お世話になった祖父がいました。一緒に住んでいた時期もあり、毎朝朝が弱い私を

「もう時間だぞ。」

と起こしてくれていました。祖父は趣味が多く動くことが好きだったので、よく一緒に旅行に出かけました。私はそんな祖父が大好きでした。ところがある日突然倒れ、寝たきりの生活になってしまいました。今まで誰かを介護する環境を知らなかった私はこの出来事に戸惑いと不安で一杯になっていました。その時の私は、介護と考えると誰にとっても辛いことばかりだと思いついていました。祖母と母が祖父の話をしている時はその場から離れてしまいました。けれどもある日、今までとは違う祖父の姿を見れずにいた私も、祖父に会いに行くことになりました。その時初めて見た実際の介護は、私が想像していたものとはまったく異なるものでした。介護をしている祖母も母も、されている祖父も笑顔で、その場から辛いという雰囲気は一切感じられませんでした。その時から

東海村立東海南中学校 二年生

白澤 しらすわ

春乃 はるの

東海村



本当の介護について改めて考えるようになりました。

祖母と母が介護をしている様子を見て、介護とは面倒を見るということではなく、助け合うということだと学びました。また、人と人をつなげていく一種の方法だとも思いました。介護をする人も、される人もお互いの間に壁は存在せず、笑い合って接し合っていました。

祖父はその後間もなくして亡くなってしまいました。私が、私は最後まで介護を通して祖父と触れ合うことができたことを嬉しく思います。それまで間違っていて認識してしまっていた私の介護への考えを、祖父母が、両親が考え直すきっかけを与えてくれました。このことを大切に、これからの日々を歩んでいきたいと思えます。そして、将来私が介護を体験するようになった時には、お互い笑顔で助け合っていける介護をしたいと思えます。





片野 喜代江（長寿の里）  
「福の神降臨！」



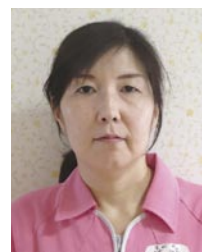
## 茨城県老人福祉施設協議会長賞 ご利用者のお話から 知ったこと

特別養護老人ホーム 成華園 介護職員

菅野 すがの

絹恵 きぬえ

日立市



Aさんは、私が今の施設に勤め始めた最初の頃にお名前を覚えた方です。食事以外のほとんどの時間を、ご自分のお部屋で過ごされていました。もの静かで、生活動作の多くが自立されていたAさんは、介護技術を覚えることで手一杯だった当時の私にとって、あまり関わりを持たないご利用者でした。Aさんについて先輩職員から教わったことは、朝夕の一日二回、湯たんぽのお湯を替えて差し上げるようにということでした。

Aさんからお部屋のナースコールでお湯を替えて頼まれることがよくありましたが、ある夕方、まだコールがないと思い、自分からお部屋へ伺って、そろそろお湯を替えましょうかと申し出たことがありました。もうすぐ頼むところだったとAさんは喜ばれ、私がお湯を入れ替えた湯たんぽをお渡しすると、次のようなことを何度も仰言いました。ああ良かった、これ（湯たんぽ）が温かいと布団の足元が冷えなくてよく眠れる、これがあると本当に眠れて助かる。本当にありがとう。

Aさんがご自分から話されたことにも驚きまし

たが、その内容が温かい湯たんぽがある安心感だったことと、それを繰り返されていたことにも衝撃を受けました。夜、足元が暖かいということが、Aさんにとってそれほど大切だったのかと、初めて知ったからです。よく、安心できる介護という言葉が使われますが、ご利用者にとって安心とは実際に何なのかを、突き詰めて考えたことがありませんでした。それが初めて具体的なイメージになったのは、Aさんのお話によつてでした。

Aさんはその数か月後に亡くなってしまい、それまでに私が温かい湯たんぽをお渡しできた回数には、そう多くありません。Aさんのことを思い出すと、現在入所されているご利用者の安心とは何なのか、お一人お一人について介護しなければならぬと、改めて思います。



中野 いづみ (玉樹)  
「8月8日88歳!末広がりに!」



## 茨城県社会福祉協議会長賞

# 世界でいちばんの笑顔

水戸市立第三中学校 二年生

山田 やまだ 彩水 あやみ

水戸市



「おはよう。今日も一日、よろしくね。」  
満開の笑顔が咲き、やさしい声でのあいさつから、一日がスタートしました。

私は、二年の夏に行われる職場体験で、学校のすぐ近くにあるケアセンターに行きました。老人ホームとは違い、お家に住んでいる方をセンターで昼間だけ生活のお手伝いをする所です。

初めて実際に目にする職場、入居者さん方と初めて接すること事の不安で、とても緊張していました。そして迎えた朝、

「おはようございます。」  
私があいさつすると、

「おはよう!よろしくお願いしますね。」

とても明るく、優しい声がかえってきてとても安心しました。おばあさんが向けてくれる笑顔はとてもあたたかくて、一瞬で緊張がとんでいってしまっただけの魔法の笑顔です。それでも、私が一番大変だったのは、髪を乾かす作業です。職場の方からアドバイスを頂きましたが、自分以外の人の髪を乾かすのは慣れず、時には、「もういいわ。他

の人をお願いします。」と言われてしまったこともありました。想像していた以上に難しく、そう言われた事がショックでなりませんでした。

しかし、言われてしまった時にできていなかった事を思い出してやってみると、「あなた、とても上手よ。」と褒めてくださったり、「かわいく、髪を分けてちょうだい。」と言ってくださったりしました。全部の「ありがとう。」が心に染みて、ここに来て、出会えた経験ややさしい感謝が涙が出る程うれしかったです。二日目には、本当の孫のようにかわいがって下さいました。私が今まで生きてきた中で、いちばん嬉しかった「ありがとう」でした。

「介護」は人が一方的に体の不自由な方のお手伝いではなく、心を通わせ、温かな笑顔を築いていくための「感謝と笑顔のキャッチボール」であることが大切だと思います。



大山 章子 (やすらぎの園)  
「春うらら」



## 茨城県社会福祉協議会長賞

# 『出合いの時に』

「筍混ぜご飯」「揚げ豚カツ」「人参と貝割れ大根のサラダ」ボランティアの一人暮らし高齢者への食事作り、月一回のお弁当の献立です。

初めに先生の作り方の説明、野菜を切る人、調味料を量る人、誰れとなく暗黙の中、作業が進んでいく。私が給食ボランティアを始めたきっかけは、在宅介護の仕事をして間もなくある夫婦の家にサービスに入った時の事です。突然おじいちゃんは訴えるかの目で、私に「二人とも足が痛いので外食には行けない。一度でよいからテレビで見たハンバーグランチを食べてみたい」と、「材料があるから作ってくれないか」と私は願いを叶えてやりたいと思いい、外食のランチを思い出してライスはお皿に、ハンバーグ・粉ふき芋・ブロッコリーを添え、スープ・フォーク・ナイフをつけた。二人並んでハンバーグを食べる姿は微笑ましく映った。「ほんとうにお店で食べている様で美味かったよ」「ご馳走さん」と、その後この言葉はずっと私の記憶に残っています。さっそく私も料理を覚えて地域の人たちにお弁当を届けるボランティア

アを始めた。その月のお誕生日には、お花と絵手紙・月に一回の安否確認もかねて・・・。

「今日のはどんな弁当毎回楽しみになっているよ。」の言葉と同時に話はずきない。「ひ孫が生まれたよ。」「孫が結婚して写真が送られてきたよ。」と私達に見せる。配達する九十歳のおばあちゃんは一暮らし、外出も大変で、一日テレビを見る事、近所の人との会話が楽しみだと言う。そんなおばあちゃんの話に相槌して先輩の後に立つ私に「貴方とは月一回しか会えないけど楽しみにしているのよ。」の一言。私はこの言葉が嬉しかった。小さな事でもお互いが笑顔で幸せを感じる事、介護する人もされる人も同じ気持を味わう事の瞬間を。

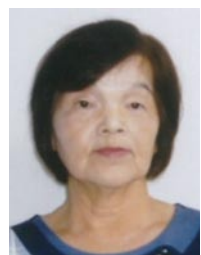
年を重ねて地域の人との繋がり、一人では不可能な事も皆の手で、自分が興味をもった分野で生かされる事。小さな幸せをお互いに感じる時を大切にしこれからも続けて行く。「月一回の出合いの時を」。

よしだ  
吉田

さちこ  
幸子

主婦

筑西市





柳箸 勇一郎 (ハートピア水戸)  
「おもいがとれたよ」



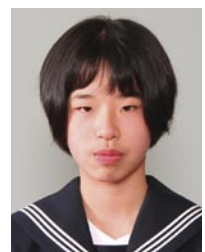
## 茨城県理学療法士会長賞

# 介護体験を通して学んだ事

東海村立東海南中学校 一年生

住谷<sup>すみや</sup> ゆりな

東海村



私は介護体験に行くまで、「とても大変」「こわい」というふうなイメージをもっていました。でも、介護体験に行つて介護へのイメージが変わった事があります。

一つ目は、場の環境です。いつもバタバタしていて、暗い感じなのかなと思っていましたが、全然そんなことはありませんでした。むしろ、とても明るくて、にぎやかで、けれど落ち着いていて、リラククスできるような空間でした。なので私も、とても居心地がよかったです。

二つ目は、おじいちゃんおばあちゃんへの接し方です。何でもやってあげて、そんなに話をしないのかなと思っていましたが、できる事はなるべく自分でやるようにし、やるのが難しい事は手伝いながら一緒にやり、たくさんコミュニケーションをとり、たくさんお話していました。なので、私も、たくさん話を聞かせてもらったり、一緒に折り紙を折ったりして、たくさんの人と仲良く出来ました。

私が思っていた以上に介護は、そんなにかたく

るしい事じゃなくて、私はあんがい、少し「楽しいな」と感じました。私がやってあげた事に対し、「ありがとう」「助かるよ」などと言われると、とても嬉しくて、もつと自分が役に立ちたいと思うようになっていました。あとは、おじいちゃんおばあちゃんが楽しそうにしていたり、笑っていたりすると、私まで楽しくなって、笑顔になれました。

しかし、介護がとても大変な事だというのは、私のイメージ以上に大変でした。おじいちゃんおばあちゃんを傷つけてしまったらとか、けがさせてしまったらとか、いろいろな不安があるし、できない事を手伝うのもとても大変なんだそうです。でも、おじいちゃんおばあちゃんが感謝してくれると、またがんばろうという気持ちになれるのだそうです。

介護はとても大変だけど、とてもやりがいのある事という事が介護体験で学べました。



木村 めぐみ (愛和苑)  
「君といつまでも」

## 茨城県理学療法士会長賞

# 『父と母の二十六年』

私たち姉妹の父は、祭大好き・カラオケ大好きスポーツ大好きな人でした。私たちが小学生の時には、父の作った卓球台で家族四人で試合をしたり、近所の子どもたちを集めて野球を教えたりする優しい人でした。

その父が脳出血で倒れ、母の介護が始まったのは父が五十六歳の時でした。父は右半身が利かず言葉も思うようになくなりました。そんな父に母は、「毎晩浴びるように酒を飲んでそうなったんだから、これからはリハビリだよ。」と部屋に籠りがちな父を三部屋先の居間まで歩かせて食卓に座らせました。着替えもどんなに時間がかかっても隣でじっと待ち、自分でできることはとことんやらせていました。そして三年、利き手ではない左手で習字を書き、絵を描くようになりました。口では強く言う母も、週三回通うデイサービスとの連絡ノートには隅々まで目を通し、できることは家でも続け、食事のバランスにもずいぶん気を遣っていました。

あれから二十六年、元気に過ごしていた父の異

## 塚本 百合子

調理師

かすみがうら市



変に気づいた時には既に末期の大腸癌でした。医師からは「根治は難しいですが、人口肛門にすれば退院して物も食べられるようになるかもしれません。」と言われた時、初めて母が弱音を吐きました。「もう、八十一歳、ストマの交換なんて無理だ。」と。そんな母に「今度は私たち姉妹がやるから。」と励ましました。

手術は成功。父が退院し、大好きな鮎を食べ、「うまいな。ほんとうにうまい。」と満面の笑みを見せてくれた時に気づきました。大切な人の笑顔が私たちを幸せにしてくれていると。

それから三カ月、六日前までデイサービスに通い、たくさんの人に笑顔を遺して平成二十八年五月、八十六歳の誕生日の少し前に父は逝きました。一度も弱音をはかなかった強いお父さん、二十六年間父の笑顔のために頑張ったお母さん、ありがとう。娘より



若松 千春（やすらぎの園）  
「うまそうだっぺ」



## 茨城県介護福祉士会長賞

# 『僕の祖母』

僕の祖母は今、八十八才です。一人で歩くことは出来ず車イスに乗っていて、特別養護老人ホームに入所しています。祖母がホームへ入所するまでは、毎日がとても大変でした。祖母は、僕や母、家族のことが誰だか分からなくなり、ベッドに寝たきりのためトイレも食事も入浴も一人では何もできませんでした。時には、紙オムツをはずしてしまい下着や洋服、布団なども汚してしまったり、夜中に突然大きな声で怒りだして、全然眠らずに朝までさわいでいました。自分のかみの毛を引っぱったり、僕達が気づくと引っかき傷で血がでていたり、とにかく目を離せませんでした。

寝たきりになる以前には、徘徊をしていつも迷子でいなくなる事が多く、家族はつかれ果てていました。何ヶ月も続く祖母の介護に、僕達家族はあまり眠ることも出来ずに会話も少なくなり毎日イライラして、楽しく笑いあうことが少なくなりました。家族のみんなのつかれで、悲しくさびしい毎日だったように思います。祖母は、僕が幼い頃毎日一緒に遊んでくれて、たくさんの楽しい

思い出がいっぱいです。祖母がその頃と全くの別人になってしまったような感じがして、あまり祖母のことは見たくなく近づきたくなかったです。それでも僕は、祖母のことがきらいにはなれなかったもので、いつも複雑な気持ちでいっぱいでした。

ホーム入所が決まり祖母が家から居なくなった時は、ほっとした気持ちとさびしい気持ちの両方でした。入所した祖母に会いに行った時、僕の顔を見ても何の反応もしなかったのに、僕の名前には反応して何度も名前をくり返してくれた時、正直うれしかったです。

ホームへ入所するために色々と手続きしてくれたケアマネジャーさんや、祖母のことをとてもよくお世話し、介護してくれている職員さんたちに感謝の気持ちでいっぱいです。福祉の様々な仕事についている人々たちのおかげで、今の自分のそして家族の平和な日々、祖母が安心してくらしける毎日が成りたっているのだと思います。

銚田市立旭中学校 一年生

白田 将也  
はくた まさや

銚田市





木村 奈緒美 (ドルフィンサテライト)  
「いつまでも夫婦円満」



## 茨城県介護福祉士会長賞

特別養護老人ホームグリーンハウスみと介護職員

## 介護と感謝

おおた あやの  
**太田 彩乃**

水戸市



私は介護職員になってから一年がたちました。高校生になってからずっとなりたかった職業でした。入社してみても、思っていた介護と違うところがたくさんありました。そこで一番感じることは、感謝するということです。

感謝は、利用者の方からだけでなく、職員から利用者の方への感謝もたくさんあります。私が一番そのことを感じる瞬間は、出勤時と退勤時です。出勤時あいさつをするため向かうと、手を握り笑顔で、

「会いたかったんだよ、来てくれたんだね。」

と声をかけて下さり、退勤時には、

「気をつけてね、また来てね待っているよ。」

と優しい声をかけて下さり、そのおかげで毎日笑顔で仕事ができ、本当に感謝しています。

高校生になる前、祖母が祖父の姉を介護していました。私はその時介護のことをよく知りませんでした。祖母が介護をしている後ろ姿を見て介護の大変さを知り、祖父の姉が笑顔になる姿を見て介護の大切さを知り、この職業に就くことを決め

ました。介護士という仕事の道に導いてくれた祖母にとっても感謝しています。

介護の感謝についての記事を調べたことがあり、そこには、感謝は連鎖すると書かれています。感謝の心で人に接することで連鎖をしていき周りの方も喜び感謝をしていくということが書かれています。介護の仕事でもとても大切なことだと私は思います。その人への感謝の気持ちの大きさがサービスに直接伝わっていくと思うからです。

記事を読んでから、さらに仕事に誇りを持ち、あの感謝を感じる瞬間、利用者様の笑顔がもつと素敵になるような介護職員になりたいと思えました。これからも周りの方々への感謝を忘れず、笑顔で頑張ります。

# いばらき介護フェス2016



楽じゃない…けど、  
楽しくなければ介護じゃない！

## 内容

◎「介護の日」感動・感激 心温まる写真展 ◎事例発表・トークイベント等

## 写真展示期間



写真展示会場：ファッションクルーズ：11月 3日(木)～11月 6日(日) 1階  
茨城県庁：11月 8日(火)～11月13日(日) 2階  
イーアスつくば：11月11日(金)～11月14日(月) 3階  
県総合福祉会館：11月 9日(水)

## 講演会・表彰式

- ◎ 期日 11月9日(水)
- ◎ 場所 茨城県総合福祉会館 1階 コミュニティホール  
水戸市千波町1918

### ◎ 日程

9:30～10:00 オープニング しらとり太鼓  
10:00～12:00 事例発表(7事例)  
～めざせ！介護事業所日本一・うちの施設すごいんです！～  
13:00～14:00 介護の日作文・写真コンクール・事例発表者表彰式  
14:10～15:40 トークイベント  
出演：NPO法人 Ubdobe



しらとり太鼓の演奏と舞



※医療福祉エンターテイメント集団、  
介護現場のイメージアップのために  
日夜奔走、介護に対する2人の熱い  
思いのトークを是非お聴きください。



代表 岡 勇樹氏

理事 中浜 崇之氏

茨城県老人福祉施設協議会 (平成28年9月現在 会員事業所 1,119 事業所)

〒310-0851 水戸市千波町1918 県総合福祉会館 2階

TEL 029 (241) 8529 FAX 029 (241) 4456 <http://www.jsibaraki.jp>



# 茨城県社会福祉協議会(茨城県福祉人材センター)の取り組み

## 福祉の仕事に就きたい人と人材を求めている施設・事業所をつなぎます！

茨城県福祉人材センターは、福祉従事者の確保を目的として、社会福祉法に定められた機関であり、茨城県から茨城県社会福祉協議会が指定を受け運営しております。

### 参加しよう！



### ふくし職働(しょくどう)のご案内

福祉の職場に就職を希望する方や従事している方に、求職者支援強化事業「ふくし職働」～ふれあって 暮らしをささえる しあわせな職業どう？～として、福祉の仕事に生かせる実践的な講座を開催しております。

ぜひ、この機会に参加して福祉職場への就職に生かしてみませんか。

■暮れ六つ講座(原則第2火曜日の午後6時～8時)  
就職活動や、福祉の仕事に従事する際に生かせる実践的な講座

■夕暮れしゃべり場(隔週水曜日の午後6時～8時)  
福祉の仕事に従事している方、また就職を希望する方等、誰でも自由に語り合えるサロン

■仕事とところの相談(夕暮れしゃべり場と同日午後1時～6時開催)  
就職や仕事に関する不安なところのケアを、専門家が対応します

■木になる講座(原則第4木曜日の午後1時30分～3時30分)  
就職活動や福祉の仕事に従事する際に、まさに「気になる」テーマを題材とした講座

■おひさま講座(原則第3金曜日の午後1時30分～3時30分)  
昼間開催する就職活動に生かせる実践的な講座



※詳細については、お問い合わせください。

### 体験しよう！



### 職場体験事業

実際の福祉現場を体験する機会として「職場体験事業」を行います。実際の福祉の職場の様子を見たい、学びたい、体験したいという方は、ぜひ参加してみませんか。

体験先 (高齢者分野)	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、老人デイサービスセンター、グループホームほか
体験内容 (例)	各施設・事業所が用意する体験プログラム 利用者の介護・介助、作業補助、利用者との交流など

### 働こう！



### 福祉人材無料職業紹介事業

福祉人材センターに求職登録された方には、ご希望の事業所などへの職業紹介・あっせんを無料で行います。

福祉の仕事に興味や関心のある方はご相談ください。

- 福祉人材無料職業紹介
- 福祉の就職総合フェア・就職相談会
- 福祉の職場説明会(就職ガイダンス) など



## 社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会

〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館2F

TEL029-2414-1133(代表)、029-244-4544(福祉人材センター) FAX029-244-4543

URL:<http://www.ibaraki-welfare.or.jp>



茨城県理学療法士会は、理学療法を通じて  
県民の保健・医療・福祉の増進と自立生活支援に寄与する事業を実施します。

## ★北茨城地域自立支援センター

- 住み慣れたまちで誰もが安心して暮らし続けられるよう、理学療法士がリハビリテーションの立場から、保健・医療・介護・福祉・教育・就労の更なる連携推進をお手伝いさせていただきます。
- 平日の13時から17時、北茨城地域自立支援センターに理学療法士が駐在し、より良い在宅生活の構築に関する相談を受け付けておりますので、お気軽にご連絡ください。
- 北茨城市や関係機関・団体とともに地域リハビリテーションの手法を活用して、北茨城市の地域包括ケアシステム構築を目指しています。

### 【相談事例】

- 退院・退所後のご自宅での自立した生活方法、住宅改修のアドバイス
- 訪問リハビリテーションを受けたい
- リハビリテーション、職業性腰痛、介護方法に関する勉強会の講師依頼
- 障がい児・者や家族からの在宅生活、リハビリテーション全般に関する相談 など

### 【実践活動事例】

- 入院中の退院調整会議や地域ケア会議への参加
- ケアマネジャーや訪問看護師等と同行訪問
- 介護予防事業や通所サービス事業所での個別・集団対応 など

## ★介護予防キャラバン

介護予防キャラバンは、県民の皆様がいつまでも生き生きと健やかに過ごせるよう、自らの心身機能や活動に対する意識づけや啓発を目的として、体力測定に基づく助言の実施や様々なニーズに対して、理学療法士が相談を受け実施します。

### 【昨年度実績】

- 茨城県理学療法士学会
- 「まちの保健室」事業（茨城県看護協会）
- 古河市「古河ふれあい広場2015」
- つくば市「健康づくりキャンペーン」
- ひたちなか市「健康スポーツフェスティバル」
- 筑西市「みんなの生活展」
- 介護予防フェスティバルin北茨城
- 茨城県看護協会・北茨城市シルバーリハビリ体操指導士会との共同介護予防事業

### 【今年度実施・予定】

- 茨城県理学療法士学会
- 「まちの保健室」事業（茨城県看護協会）
- 古河市「古河ふれあい広場2016」
- ひたちなか市「健康づくりキャンペーン」
- ひたちなか市「健康スポーツフェスティバル」
- 筑西市「みんなの生活展」
- 介護予防フェスティバルin北茨城

## ★訪問リハビリテーションサポートセンター

- 「心身機能」「痛み」「歩行・移動動作」「自立支援」の専門家である理学療法士が、お子様からお年寄りに至る訪問リハビリテーションに関する相談を受け付けています。
- 訪問リハビリテーション事業所の紹介、訪問リハビリテーションの制度やサービスの紹介・相談等をさせていただきます。お気軽にご連絡ください。
- 相談日時：平日9～17時 直通電話：090-4361-8985

今後、県内44市町村と協働して上記の事業などを市町村単位で展開し、県民の健康寿命の延伸を目指します。

### 【お問い合わせ先】

公益社団法人 茨城県理学療法士会 北茨城地域自立支援センター  
〒319-1704 茨城県北茨城市大津町北町3-6-11  
TEL：0293-44-3616（直通） FAX：0293-44-3617

公益社団法人 茨城県理学療法士会  
〒310-0034 茨城県水戸市緑町3-5-35（茨城県保健衛生会館内）  
TEL：029-353-8474（直通） FAX：029-353-8475  
ホームページ：http://www.pt-ibaraki.jp/

# 仲間と一緒に自分をみがこう

一般社団法人茨城県介護福祉士会は、介護福祉士の皆様をサポートします。

## サポート1 スキルアップのための多彩な研修会の開催

- 実習施設指導者講習会
- 介護福祉士国家試験対策講座
- サービス提供責任者研修
- 障害者支援のための研修
- 介護技術指導者講習会 等
- 全国規模の日本介護学会・全国大会



## サポート2 全国の仲間との新しいネットワークづくり

日本介護福祉士会茨城支部として全国に介護福祉士のネットワークを持つ全国規模の組織です。会の様々な活動を通して、個人のネットワークを広げていくことにより日々抱えている悩みや困難なことなどを同じ介護福祉士同士で共有し、助け合うことができます。あなたの新しいネットワークづくりをサポートします。

## サポート3 職場環境の改善等への取り組み

介護福祉士の処遇や社会的評価に関する調査・研究のためにアンケートを実施し、その結果をまとめ、厚生労働省等に提言を行っています。

## サポート4 最新の動向・情報の提供

介護福祉士に必要な福祉施策の動向や研修会の情報をはじめとした、様々な最新情報を発信しています。提言・調査結果は日本介護福祉士会ホームページで確認することができます。



〒310-0851

茨城県水戸市千波町 1918 番地

茨城県総合福祉会館 5 階

一般社団法人茨城県介護福祉士会

会長 沼田正人

☎ 029-353-7244 Fax029-353-7246



茨城県

**茨城県保健福祉部長寿福祉課地域ケア推進室**

〒310-8555 水戸市笠原町 978-6 tel.029-301-3334



**茨城県老人福祉施設協議会**

〒310-0851 水戸市千波町 1918 tel.029-241-8529